

☆年間第26主日(9月27日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (エゼキエルの預言 18章 25～28節)

それなのにお前たちは、『主の道は正しくない』と言う。
聞け、イスラエルの家よ。
わたしの道が正しくないのか。
正しくないのは、お前たちの道ではないのか。
正しい人がその正しさから離れて不正を行い、
そのゆえに死ぬなら、それは彼が行った不正のゆえに死ぬのである。
しかし、悪人が自分の行った悪から離れて正義と恵みの業を行うなら、
彼は自分の命を救うことができる。
彼は悔い改めて、自分の行ったすべての背きから離れたのだから、
必ず生きる。死ぬことはない。

第二朗読 (使徒パウロのフィリピの教会への手紙 2章 1～11節)

そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、
"霊"による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、同じ思いとなり、
同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たして
ください。何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに
相手を自分よりも優れた者と考え、めいめい自分のことだけでなく、他人の
ことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・
イエスにもみられるものです。キリストは、神の身分でありながら、神と等し
い者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分
になり、人間と同じ者になりました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に
至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを
高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上の
もの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべて
の舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるの
です。

福音朗読 (マタイによる福音書 21章 28～32節)

「ところで、あなたたちはどう思うか。ある人に息子が二人いたが、彼は兄のところへ行き、『子よ、今日、ぶどう園へ行って働きなさい』と言った。兄は『いやです』と答えたが、後で考え直して出かけた。弟のところへも行って、同じことを言うと、弟は『お父さん、承知しました』と答えたが、出かけなかった。この二人のうち、どちらが父親の望みどおりにしたか。」彼らが「兄の方です」と言うと、イエスは言われた。「はっきりしておく。徴税人や娼婦たちの方が、あなたたちより先に神の国に入るだろう。なぜなら、ヨハネが来て義の道を示したのに、あなたたちは彼を信ぜず、徴税人や娼婦たちは信じたからだ。あなたたちはそれを見ても、後で考え直して彼を信じようとしなかった。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

ようやく、涼くなりました。季節は定められた通りにやってくるのですね。人間の「節操のなさ」を痛感します。

さて、今日は「世界難民移住移動者の日」となっています。内戦や政治的迫害のために母国を脱出せざるを得ない人たちや、その他多くの理由により移住や、災害のために住む場所を離れなければならない人たちを思い起こし支援する日となっています。今年はそれにもまして、新型コロナウイルス感染症のためにさらに多くの苦難が襲っているのが現状です。幼子イエスもヘロデ王の迫害を逃れてエジプトに避難されました。明日は我が身なのかもしれません。少しでも私たちにできる支援(献金・祈り・善行)を行いましょう。

第一朗読 (エゼキエルの預言 18章 25～28節)

今日のエゼキエルの預言は何が神の前に本当に正しいことなのかを私たちに教えています。悪から離れて正義と恵みの業を行うこと、なのです。

自分の行ったすべての背きから立ち直ること。今はどうなのかということ

です。または、罪びとの回心を望まず、犯罪者が更生することを望まない、すなわち自分は正しいと言っている人の態度を神は糾弾されているのではないのでしょうか。「私は悪人の死を喜ぶだろうか。立ち返って生きることをよろこぶのだ」。神は何のために私たち人間を創造されたのかを考えることが大事なのです。すべての人が神の喜びのうちに生きることを神は望んでおられるのです。

第二朗読（使徒パウロのフィリピの教会への手紙 2章1～11節）

パウロはエフェソのローマ総督の牢に繋がれているときにこの手紙を書いたといわれています。パウロもいわゆる囚われの難民だったのです。つまりパウロの辛い状況の時の手紙なのです。ですから「…私の喜びを満たしてください」と願っているのです。今日は世界難民移住移動者の日」ですが、私たちができるのは物的な支援だけではないことを思い起こしましょう。パウロが言うように「キリストによる励まし、愛の慰め、霊による交わり、慈しみや憐みの心、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにすることを通して、私たちの主である神に祈ることです。このような祈りは私たち誰もができることなのです。フィリピの信徒の皆さんがパウロの願いに応えたように、私たちが教会の呼びかけに応えましょう。

福音朗読（マタイによる福音書 21章 28～32節）

イエスは祭司長や民の長老たちと、徴税人や娼婦たちを対比させて、神が望まれる態度とはどのようなものかを教えておられます。またほかの個所では「あなたたちは彼らの言うことを行いなさい。行いを見習ってはならない。」とされています。口先でいうことではなく、実際の行いが大事だと言われているのです。徴税人や娼婦が洗礼者の説教を聞いて回心し、それまでの罪過を悔いるなら、彼らは生き、死ぬことはない、第一朗読でエゼキエル預言者は言っています。イエスも「徴税人や娼婦のほうがあなたたちより先に神の国に入るだろう」と言われています。先週話した「天国どろぼー」でもあります。では、罪びとや悪人のほうが良いの

でしょうか。そうではありません。罪を悔い、回心し、立ち直ることが大事
なのです。悪いことはしないけれど良いこともしないのではたりないのです。
そのような優柔不断の心、冷たくもなく熱くもない心から立ち直り、神の
望まれる生き方に立ち返ることを神は望んでおられるのです。私たちには
そのように立ち返る余地があるのではないのでしょうか。今の生き方を「考え
直すこと」です。

コロナ感染症対策で今までの対応の仕方から少しずつ改善されてきて
いますが、まだコロナの治療薬やワクチンができたわけではありませんので、
対策をしっかり行ってまいりましょう。これからの季節はインフルエンザの
季節でもあります。インフルエンザのワクチンを受けて、自分を守るように
いたしましょう。

カトリック足立教会
主任司祭 野口重光